UDL通信

新潟市立小須戸小学校
UDL 推進部
No.１
令和３年６月１１日

なぜ UDL に取り組むのか

なぜ UDL に取り組むのか，「学校の方針だ」ということではなく，授業改善という視点で改めて考えたいと思います。

UDL は，アメリカの研究団体 CAST（Center for Applied Special Technology）が提唱する指導のフレームワークです。なぜ CAST がこのフレームワークを提唱するようになったのでしょうか。UDL オリエンテーションでも触れましたが，当初 CAST は障害のある方にその障害に対応したツールやソフトを提供していました。しかし，それらは，ある方にはよくても，違う方には適さない場合もあり，自分たちの視野の狭さに気付き，視点がカリキュラムのバリアへ移行していきました。

私は「子どもを語る会」の資料作成時に UDL を取り組んでよかったと感じました。昨年度の４年生の資料では，多くの子どもたちに「書くこと」に関わるバリアが生まれ，一人一人に違った個別指導・支援が書かれていました。しかし，今年度は，そのバリアの記述がほとんどなくなったことに気付きました。その子どもたちに感想を聞いても，「困っていません」「授業が楽しくなりました」「よく分かるようになりました」と話していました。なぜこのような変化が起きたのでしょうか。この変化は，タブレットの導入と共に，UDL を取り組んだからだと思います。CAST と同様に，小須戸小の職員も自分たちの視点を広げ，学習者のバリアでなく，カリキュラムのバリアに視点が移ったからだと思います。この事例は「書くこと」だけですが，教育全般に対してカリキュラムのバリアがあると考え，すべての子どもたちに多様な学びが保障されるようにしていきたいです。

最後に，UDL の理解を助ける３つのポイント（「授業のユニバーサルデザイン vol.１２」）を紹介します。まずは，このポイントを意識した実践を目指したいです。

１　障害があるのはカリキュラム
２　学ぶゴールを明確にする
３　事前にバリアを見付けオプションを用意

「授業のユニバーサルデザイン vol.１２」のコピーを配付しました。ご自分の都合のよい時間に，こちらを読みながら理解を深めてください。

６月のカフェのご案内！

６月２１日（月）16:00-16:30　学年部カフェ（全員参加）
６月２８日（月）15:30-16:30　エールカフェ（自由参加）